

# THE YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.794 2020

2020年3月1日発行（毎月1日発行）  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円（外税）（送料63円）  
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塙町2番11号  
TEL : 03-5367-6640 FAX : 03-5367-6641  
URL : <https://www.ymcajapan.org/>  
発行人／神崎 清一 編集人／山根一毅  
印刷／あかつき印刷株式会社



## いじめのない世界を目指そう —YMCAピンクシャツデー 2020



### OPINION

### 「隠し事の無い社会で平和に暮らしたい」

公益財団法人かながわ国際交流財団 専務理事 水田 秀子

昨夏、東日本大震災による福島原発事故の放射能被害者のために、献身的な活動をしている市民団体や保育園などを訪ねました。そのとき福島市内のある教会で、1通の手紙を紹介されました。昨年11月ローマ教皇が来日した際、東京の集会で避難者を代表してスピーチした16歳の少年の、教皇にあてた手紙です。

いわき市内の少年の自宅は避難区域ではなかったけれど、高い放射線汚染を避けるため、家族で自主避難したこと、転校先の小学校で理不尽な差別や、命の危険を感じるほどのいじめを受けたことが書かれています。あまりのつらさに中学進学時、出自を隠すため遠く離れた学校を選び、しばらくは平穏な日々を取り戻しますが、自分の本当の気持ち、自分自身の一部である福島での生活を隠し通すことに耐えきれなくなり、心が粉々に壊れそうだという苦悩が切々と綴られています。

「被害に遭ったものが、さらにいじめや差別を受けるのはなぜなのか。それは、原発が国策であり、被害者の証言は国策を否定するものとなるからです。原発政策を拡大していくために、被害を矮小化し実態を語らせまいとする為政者たちのゆがんだ政策やプロパガンダが、大人だけでなく僕たち子どもの世界まで狂わせているのです。」

なんの罪もない子どもの心をこれほど苦しめ、悩ませていたことに私たちは思い至っていたでしょうか。未曾有の原発事故の被災者がすぐ近くに暮らしているのにそれに気付かず、過ぎ去った遠くの出来事を感じているのではないでしょうか。少年は手紙の最後をこう締めくくっています。「多分、僕の本当の望みは、ごく普通に隠し事の無い社会で平和に暮らしたいということだけなのだと思います。でも、原発事故被害者は、今の日本の社会の中で、何かに目をつぶり、耳を塞ぎ、口を閉ざさなければ安全に生きていけません。こんな歪んだ世界から、どうか、僕たちを助けてください。」

過去を否定するものは現在の自己を否定し、未来の世界を狂わせるという少年からの見事な喝破を、私たち大人はしっかりと受け止めなければなりません。

かながわ国際交流財団では、国境や人種、文化の違いをこえて、すべての人が差別のない社会で心豊かに暮らせるため、様々な事業を実施しています。グローバリゼーションの進展により、人と文化の交流が増す今日、他者に対する寛容さや共に生きることが今こそ求められているのではないでしょうか。

（横浜YMCA 常議員）

（OPINION…意味は「意見・見解」など。『THE YMCA』では毎号、関係ある団体・個人からの意見や提案を掲載します。）

「ピンクシャツデー」は、2007年、カナダの学生2人から始まつたいじめ反対運動です。ある日、ピンクのボロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼び掛けました。翌日学校では呼び掛けに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に着けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなつたそうです。

YMCAはピンクシャツデーに取り組んでいます。いじめのない世界を目指して、全国のYMCAがアクションを起こします。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。<https://www.ymcajapan.org>

## 「ちがい」を認めて関わり合える社会を

思春期は子どもから大人に向けて急速に心身が変化・成長する時期です。子ども同士の関係やコミュニケーションも、小学校低学年までとは質的に異なったものへと変化していきます。そのような変化についていけない子どもの中には、孤立を深める子も出てきます。元々コミュニケーションが苦手な自閉スペクトラムなど発達障がいの子どもたちや個性的な発達をしている子どもたちも「いじめ」に遭うこともあります。

東京大学教育学部長や日本教育学会長を歴任した太田堯氏は朝日新聞のインタビューで「ちがい」と「いじめ」についてこのように話しています。

「子どもには保護が必要だが、それには裏があって、親や社会が同化を求める側面がある。しかし本質的に一つひとつの個体が全く違っている。「ちがっていい」のではなく「ちがってい

る」のだ。同化できるはずがないのに違いを認めないからいじめは起こるのだ。」

私たちは「ちがい」を認めて社会に関わっていくことが必要です。大人の価値観を押し付けのではなく、子どもたちが自分で感じ、良しとする認識を認める社会を私たち大人はつくり上げていかなくてはならないのです。

全国のYMCAで行うピンクシャツデーは、一人ひとりの「ちがい」を認め、寄り添っていくことを考える日です。どうしたらいじめがなくなるのか...もう一度考えてみませんか？

(横浜YMCA 山中 奈子)

※写真は本文と関係ありません



## アジア・世界のYMCAから

### □世界YMCA同盟から新年のごあいさつ

世界YMCA同盟総主事 カルロス・サンヴィー氏

YMCAは一人ひとりが大切にされる場所ですが、若者は彼ら・彼らを導いてくれるはずの体制やリーダーへの信頼を持てなくなっています。YMCAは謙虚かつ大胆な献身の上に信頼を再び築くことを目指します。また世界的な運動体として共通の目標を定め、テクノロジーの活用や効果的な対話などを通して、革新的な協働を呼び掛けます。

### □森林火災への対応（オーストラリアYMCA）

昨年より続くオーストラリアの森林火災の被害は、日本の国土の半分に当たります。被害地域にあるYMCAでは、避難と一時的なセンター運営の休止を最優先とし、周辺地域のYMCAでは施設を安全な避難場所や宿泊施設としています。今後も復興と人との健康的な生活のサポートに取り組みます。



### □環境問題に取り組むユース（マダガスカルYMCA）

アフリカ大陸の東に浮かぶ島、マダガスカルでは、多くの人々が失業し、医療や日々の食べ物も十分に得られない状況に苦しんでいます。そのような中、これまで環境問題に关心が向けられることがありませんでしたが、青年たちが国の将来のために声を上げ始め、マダガスカルYMCAが環境教育やリサイクルなどの取り組みを支援しています。

### □世界ノンフォーマル教育フォーラム 世界 YMCA 同盟

昨年12月にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで行われた第1回世界ノンフォーマル教育フォーラムにYMCAからも代表が参加しました。ノンフォーマル教育とは、地域でのスポーツや野外活動、成人識字教育や子育て支援など多岐にわたった教育で、世界のYMCAが取り組む多くのプログラムがノンフォーマル教育として位置付けられます。400人以上が参加したフォーラムで、YMCAはワークショップの運営や声明文を作成しました。

●記事の続きは日本YMCA同盟の「世界のYMCA」ページに掲載しています。ぜひお読みください。

日本YMCA同盟

検索



## 2019年度日本YMCAユースボランティア認証者

今年度は19YMCAから350人がYMCAの担い手として仲間に加わりました。[1994年から認証制度開始。これまでの認証者総数は17,388人]



認証者が受け取るカード

### 《YMCAボランティアの定義》

YMCAのボランティアとは、日本YMCA基本原則に示されている使命の実現のために、YMCAの行うさまざまな活動や組織の運営、また、YMCAが他団体と協働して行う諸活動に、①自らの自由な意志によって(自発性)、②主体的に、責任をもって参加し(主体性、責任性)、③金銭や名誉などの報いを目的とせず(無償性)、④人びとや社会のために働き(利他性、社会性)、⑤人びとと痛みや喜びを分かち合い(相互性)、⑥継続的に(継続性)、よろこんで自らの時間や労力、知識や能力、金銭などを提供する者をいう。

北海道YMCA	とちぎYMCA	前島 桃夏	酒井 菜々子	山戸 健司	滝谷 風香	新島 明里	大平 真友里	西島 汐	田中 優梨恵	図師 凉太	白石 知嗣	中尾 優花	奈良 明花音
佐藤 優恵	遠藤 横	長谷川 佳澄	永石 愛実	石井 亮馬	高井 陽一朗	仲眞 沙香	橋村 友紀	橋田 佳歩	鶴村 友紀	盛 洋希	倉田 栄平	熊澤 彩華	碇塚 裕紀子
宮崎 夢	山井 星奈	白井 真理	榎代 琢斗	伊藤 有輝	秋山 侑斗	宮澤 果蓮	松尾 夏那	松尾 夏那	中井 文音	矢野 美樹	八尾 咲帆	行方 美樹	船川 舞
飯田 熙一	鈴木 陽和	朝本 和音	岩井 駿介	今井 愛実	橋本 博朗	富山YMCA	加藤 榮香	森本 智子	永井 美聰	井内 洋介	岡田 梓	福本 麻衣	宮本 翔子
橋井 穂乃花	大沼 由依	鈴木 春海	前田 彩花	岩井 花帆	磯崎 穂乃佳	滋賀YMCA	森本 英	中村 甲斐	大館 朋恵	片岡 美穂	櫻木 千尋	姫路YMCA	熊本YMCA
谷 郁果	仲山 紗香	吉野 春奈	原田 佳苗	菊井 昌子	荒木 創太郎	斎藤 春菜	池田 百香	山田 愛理	永山 佳奈	河野 純樹	栗山 侑己	青木 しおり	尾見 駿斗
仙台YMCA	大橋 菜央	埼玉YMCA	藤木 かなこ	宮本 晓	大渕 優	多賀 愛恵	佐野 美月	脇 健吾	山崎 あすか	川真田 春花	黒田 千帆	高橋 千穂	谷崎 由梨
伊藤 嶺	板橋 春季	青柳 航	閑口 優香	山澤 美柚	京久保 尊仁	横澤 英公	有田 成希	奈良YMCA	相田 杏香	重見 圭哉	児島 芭苗	西本 みちる	田代 祐世
小澤 知世	松尾 美咲	木下 遷七	渡辺 綺莉	山近 美沙紀	規矩 明奈	名古屋YMCA	徳永 楓	奥茉莉香	鈴木 康太	寺川 亜美	櫻井 睦睡	高原 蓮珠	山口 奈菜
相澤 佑衣	小野 和也	倉尾 尾恭平	坪井 瑞来	内山 航大	塙津 まさき	高尾 菜月	小林 聖	森本 真央	富田 美咲	中井 翔太	寺川 春華	西井 韶	玉井 韶
安川 ちひろ	山崎 紫美香	小久保 美羽	安田 真菜	浦上 明日美	守屋 那々子	背戸 こころ	上田 真実	嶋田 有里	横田 司	入交 亜美	藤堂 龍樹	中村 駿希	大村 谷光
藤田 真椰	武田 将吾	平田 里歩	長谷川 彩香	志賀 海斗	小林 敦義	小島 陽	伊藤 愛都	野崎 詩歩	井藤 泉	中内 悠	橋井 優理香	柳原 陽	山代 太誠
鈴木 純乃	石本 真友香	穂千 穂	中山 美登里	進藤 混平	日橋 由	大野木 檍	松浦 桃弧	朝田 禎子	岡本 桃佳	森本 莉菜	橋井 優理香	平井 理沙	田中 崇大
八巻 楓香	小野 七海	高野 捺芽	田中 達也	坂田 明香	加藤 祐樹	飯田 ノア	京都YMCA	日端 真夢	久保 みのり	和歌山YMCA	平岡 南美	安田 萌恵	美濃部 星矢
今野 荘	高橋 亜由音	中村 凉人	赤堀 瑛奈	室崎 万里花	野島 澄太	尾閑 木の実	浅田 晴香	石崎 桃花	下岡 舞	為沢 友月	山中 喜史穂	岡本 莉奈	田口 雄太
吉岡 弔一	西 勇祐	大熊 彩	松井 耀一郎	堀越 錠加	芭蕉 裕貴	木村 圭汰	和泉 圭悟	高橋 舞	松井 晴香	志茂 友美	横山 姫乃	吉川 渚	井上 隼
鈴木 聰香	室橋 岳人	中嶋 えり	吉岡 直央	佐々木 陽菜	ファンシキルイエン	佐野 有紀	伊藤 桃子	林 美幸	松岡 由梨奈	神戸YMCA	吉川 渚	田浦 真理	奈良 明花音
粟野 真子	田口 小雪	山本 みづほ	宮崎 哲	永田 莉	杉内 優芽	三宅 杏奈	今井 そよか	岡本 貴大	三宅 奈菜	藤田 春花	山中 喜史穂	鈴木 美穂	碇塚 裕紀子
菅原 明梨	薄井 沙也	新井 真珠子	高橋 紗矢	鈴木 ゆうか	根岸 和花	山口 鹿子	上島 聰子	大坂 深優	薮下 紗希	宇田 創	横山 姫乃	吉川 渚	姫路YMCA
坪井 真奈	堀江 紗矢	新井 真珠子	横浜YMCA	宇津木 沙耶	白石 愛莉	林 里穂	奥田 深優	岡田 由季恵	吉田 駿佑	柏本 京	池田 朱音	田中 舞	田中 舞
伊藤 拓磨	吉田 沙織	阿部 明日香	齊藤 優香	八木 思音	園部 紗良	齋藤 大暉	小俣 円咲	金 秀美	西井 麻子	伊奈垣 伸一	村上 由依	神吉 麗美奈	西澤 明日歌
内海 大聰	山岡 沙也	小倉 明日香	岡本 昌	日置 雅寧	原田 善治	神谷 茂加	加藤 愛理	後藤 帆花	西井 麻子	鳥飼 風未花	川内 彬永	野中 涼子	西澤 明日歌
澤奈 莉奈	山本 奈緒	佐々木 侑里	菊地 幸平	佐藤 美羽	佐藤 美優	柳瀬 香	岸本 琉一	平野 由希奈	山口 純記	谷 なつか	中嶋 真理	前田 美由	佐藤 優輝
佐藤 万春	秋葉 咲来	阿部 真美子	佐藤 優輝	福島 倫	加藤 美優	岡山 ななみ	工藤 菜々穂	児浪 莉子	岡山 ななみ	吉川 葉月	小寺 涼香	大塚 真結	田中 舞
若生 佳那	西澤 明日歌	川田 桃香	塙本 祐介	牧内 洋樹	柳下 潤生	滝澤 優依	笹田 日和	未岐 穂乃花	未岐 穂乃花	岡本 実優	杉野 真優	小寺 涼香	金替 憲太郎
米田 琴望	西澤 明日歌	関 絵梨奈	牧内 洋樹	片野 小雪	吉永 成那	高橋 晴生	眞田 茉奈	高橋 晴生	高橋 晴生	清水 要	村上 祐治	未村 祐治	緒方 優歩